

暑い中、予定外の臨時教区会の召集にも拘らず、お集まりいただきましたことを、深く感謝申し上げます。今回の臨時教区会の議案は、八王子復活教会と幼稚園に関わる事です。限られた時間の中で実りある議論と、教区の今後の宣教活動のよき結論を得ることができまことを期待しております。

牧師から説明された方が正確であろうとは思いますが、聖公会八王子幼稚園について少し歴史を振り返って見たいと思います。八王子復活教会の創立は1908年川上親麿伝道師が田井正一長老の下で伝道を開始したことに始まります。4年後の1912年にはロジャーA. ウォーク師の夫人(I. C. ウォーク)によって八王子幼稚園は始められていますから、聖公会八王子幼稚園は実に100年の歴史のある幼稚園です。1920年に現在地に移転、翌21年からは伊藤堅逸長老が派遣され1967年まで半世紀近く牧師の任にあたられました。ご承知の方も多いと思いますが、伊藤長老は幼児教育に情熱を注いでこられました。1929年には鉄筋コンクリート建の教会堂も新築されましたが、1945年8月2日の八王子大空襲により教会堂、牧師館、園舎を焼失。戦後の復興は、1950年に幼稚園舎を再建し伊藤師が園長として夫人と共に幼児教育に当たられ主日には園舎にて礼拝を行って教会再建に邁進されました。同年教会の所属は北関東教区から東京教区に編入されました。1963年に教会堂の再建、1973年牧師館の新築、1978年新園舎の建築がそれぞれ行われました。2004年7月3日新礼拝堂の聖別式が行われました。昨年には新園舎が完成しました。一見、順風満帆に八王子復活教会は発展し、幼稚園も順調に成長しているように見えます。しかし八王子の地で幼き子どもたちに福音の種を蒔こうと努力し続けることには大変な苦勞がありました。

私たちはみな東京教区に属する一つの体、共同体を形成する仲間です。しかし残念なことに、現状はどうでしょうか。各個教会の歴史や伝統についてあまり知りません。自分の教会には深い関心があっても、隣の教会が何を考え、何を目指しているのか。何を悩み、困難を抱えているのかということに無関心であったことは否めないと思います。本当にそれで一つの教区と言えるのでしょうか。自分の教会の問題だけで汲々としていて考えることもできない。とにかく夫々が勝手に頑張ればよいというものではないでしょう。互いに祈り、支えあい、連帯していくことは本当に重要な課題であると思います。パウロはコリントの信徒の手紙の中でこう書いています。「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです」一緒に宣教について悩み、祈り、喜びを共にしていきたいと思います。今、私たちは素晴らしい共同体になることができるか、本物の教会共同体になれるかどうかの岐路に立たされているのではないのでしょうか。

八王子復活教会に幼稚園があるということは教区の皆さんも、教区会にも報告がなされてきましたのでご承知であったでしょう。勿論、聖公会八王子幼稚園は宗教法人東京教区立の幼稚園ですから常置委員会にも報告がなされてきました、法規的には設置者である東京教区と幼稚園運営委員会がしっかりと話し合っていたことになってはいますが、その経営や今後のビジョンについて今まであまり関心を示してこなかったのではないかと思います。今回の経過については議案書に詳しく資料が付けられており、何を目指しているか、何が問題であるかもご理解いただいているとは思いますが、学校法人化という問題ですべてが解決するわけではありません。私たちは東京教区の最も西に位置した教会で、キリストの種を子どもたちに蒔こうとし、努力し続けている教会を愛し続ける共同体となっていこうではありませんか。マザー・テレサが愛の反対は無関心だと言ったことは大変に有名なことです。いつも私たちは大きなビジョンを共有し、関心を持ち続け、互いに励ましあっていきたいと思います。主が共に働いてくださることを信じて邁進していきたいと思ひます。

